

はじめに

選択・単答問題か？文章を読んでその中にある を埋めるのか？

(表1 出題テキストの概要)

	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
『神社のいろは』	55問	53問	50問	53問	70問
その他テキスト	43問 (『神話のおへそ』)	44問 (『神話のおへそ』)	50問 (『日本の祭り』)	47問 (『万葉集と神様』)	30問 (『古語拾遺』)
『皇室』誌	2問	3問	なし	なし	なし

今回も公式テキストから 100%出題

前回は『古語拾遺』から3割とあり、ぴったり3割が出題、しかしこれまでの傾向からみても3割ぴったりというよりも3割強は出る可能性があるではないかという気持ちで受けるとよいか。

出題傾向(『神社のいろは』)

	第1章	第2章	第3章	第4章	第5章	第6章	第7章	第8章	合計
第1回	3	10	14	11	6	5	4	2	55
第2回	8	7	15	7	2	9	1	4	53
第3回	5	8	16	0	1	10	6	4	50
第4回	10	8	16	6	3	5	3	2	53
第5回	9	14	20	8	1	7	4	7	70
合計	35	47	81	32	13	36	18	19	281
出題平均数	7	9.4	16.2	6.4	2.6	7.2	3.6	3.8	

『神社のいろは』については、基本テキストの基本中の基本。

281問も既に出題。問題としては、テキストの内容・本文に忠実な問題が出題されているが、他の章と混淆した問題も増えてきている。

281問も出題されているということは、過去問にあたることも大事。

いつの過去問に注目すべきか？

⇒傾向が変わるとすれば、前々回あたりが要チェックか？

例) 第5回(平成28年)の問8

以下の文章の空欄 に入る言葉として最もふさわしいものを選んでください。

『古事記』には が死者の国である黄泉の国から帰って来られたときに、身に着けているものを脱ぎ、水に浸かって禊祓をしたことが書かれています。

↓ (問題を変えて出題したとすれば・・・)

『古事記』には伊邪那岐命が死者の国である から帰って来られたときに、身に着けているものを脱ぎ、水に浸かって禊祓をしたことが書かれています。

というように、問題文そのものの文章が少し変わる可能性もあるものの、答える部分、つまり大事な箇所が変わって出題される可能性もあるのではないかと？

☆『神社のいろは』のテキストの見方について

(『神社のいろは』についての概略)

- 第1章…身の回りの神社について (神社の中で普段私たちが接して目に付くもの)
- 第2章…神社における参拝作法
- 第3章…各神社の信仰 (著名神社とその全国への信仰分布の経緯) →いわゆる神社史
- 第4章…神社祭祀と神職について (いわゆる一般的なお祭りが中心ではなく、神社における祭りの区分、諸祭式も)
- 第5章…家庭祭祀と伝統習俗的な祭祀について
(家庭内における神のお祭りの仕方、地鎮祭や上棟祭、神葬祭など)
- 第6章…伊勢神宮 (お伊勢さん) について
伊勢神宮についての一般的な知識および神宮祭祀の基礎知識
- 第7章…皇室祭祀について (皇室のお祭り)
祭祀の根幹たる三種の神器と宮中三殿、神社と皇室との深い関わりを示す勅祭社
- 第8章…神社にかかわる制度の変遷・歴史
一宮・式内社など古代・中世・近代の社格について

(各章の内容について)

第1章

神社境内における建物の基本的配置

代表的な鳥居 明神鳥居と神明鳥居

本殿・拝殿について

本殿 (正殿) 神体山 大神神社

神籬・磐境 磐座 古代祭祀遺跡 ご祭神 依代…御霊代

拝殿があって本殿がない神社 本殿があって拝殿がない神社?

庭上座礼 (屋外で神々をお祭りしていた名残)

千木・堅魚木 内削ぎ、外削ぎ

神社の建築様式 (28頁)

神明造 大社造 住吉造 (仏教伝来以前 [奈良時代以前に形成された様式と呼ばれるもの])

春日造以降…仏教伝来後 一番多いもの…流造

摂社・末社 (一般神社)

神宮では 別宮 摂社 末社 所管社

名称 神宮・大社・宮・神社

かつては 神宮…伊勢 大社 (たいしゃ) おおやしろといえは…出雲大社

屋代 御屋

狛犬 神使 神社で代表的な石造物 春日灯籠

社紋・神紋

第2章

手水=禊の簡略化といわれるが…手水を取る

参拝の際 賽銭 賽…御礼、感謝 散米、散銭 鈴…魔よけ

二拝二拍手一拝 拍手…日本独自 魏志倭人伝…貴人に対して手を打つ

多様な拝 神宮 出雲大社

榊…国字 境の木 栄の木 常磐木

数え方…体 柱 座 基

第3章

各神社の信仰について

八幡 天神 諏訪 春日 祇園 住吉 熱田 出雲 鹿島・香取 浅間 熊野

第4章

神社祭祀と神職について

まつりの語源 単なるイベントではない 神がいることが一番

お祭り 神社で行われる祭祀（共通） 大祭 中祭 小祭と分けられる

大祭で大事なもの

臨時に行われるもの

神社祭祀の次第

ご神幸 神輿 渡御と還御

大祓

神職 職掌と身分

第5章

家庭祭祀

宮形 納め方 三社造 一社造

注連縄 左が細い 右が太い

神葬祭と祖霊祭祀

御霊舎 神棚とは別 霊璽

神道のお墓 地鎮祭

第6章

神宮について 恒例のお祭り 式年遷宮について

なぜ20年か 延喜式 御用材 神宮林 撤下古材

お伊勢参り 御師について

*お伊勢さんの問題は Teppan か??

第7章

皇室祭祀についての概要 宮中三殿（賢所・皇霊殿・神殿）および山陵で行う

勅祭社について 16社 伊勢の神宮以外で16社

恒例祭祀と臨時祭祀 大祭（天皇陛下みずからがお祀りされる）、小祭（天皇陛下が参列、拝礼
掌典長が祀る）臨時祭祀は式年祭

皇室の問題も昨今ご譲位の問題もあることから、何かしら出題が増えるのではないか??

第8章

社格制度

（参考文献）藤本頼生『神社と神様がよくわかる本』秀和システム 40～45頁をできれば
参照されたい。

近代の社格も基本的には古代の社格がわからないと理解できない。

一宮制についても押さえる

8章も近年出題が増えている

●『神話のおへそ【日本書紀編】』の概略について

ほぼ30%～35%が出題されるとして→落したくない30%。大事なところ

『神話のおへそ【日本書紀編】』の本の特徴を知る

* 今回初めて出題されるテキスト *

⇒どこに大事な点が書かれているか？

やはり『神話のおへそ』→人皇に入る前の神々の話に留意

そのものが出題されないが、まずは「はじめに」を見ること！

今回は3級・・・おなじ日本の神話を記した『古事記』との違いについてまずは押えてみては??

今回のテキストの中心→神代巻について

神武天皇以降の天皇紀については、4章のみ

日本書紀のややこしさ（その1）・・・「一書に曰く」

（その2）・・・神名の違い

⇒まずは『日本書紀』の書誌情報と成立の経緯は必ず押さえておきたい

⇒『神話のおへそ』というタイトルの本

『古事記』、『日本書紀』ともに共通する神話は要チェック

本テキストの内容を知る

はじめに

第1章 『日本書紀』とは？

第2章 『日本書紀』が伝える神代の世界Ⅰ 神代上

第3章 『日本書紀』が伝える神代の世界Ⅱ 神代下

第4章 『日本書紀』が伝える歴代天皇の事跡

第5章 歴史の中の『日本書紀』

おわりに

(ポイント)

●『古事記』の中で主だったものは何だったか？

天地初発、伊邪那岐、伊邪那美二神の国生み、天照大御神の岩戸隠れ、大国主神の国譲り、瓊瓊杵命の天降りなどの物語

→『日本書紀』でもある意味同じ

『日本書紀』で特徴的なもの→三大神勅

国之常立神 古事記の天之御中主神との対比

神、尊、命の違い

天照大御神（記）、天照大神（紀）、天照大日靈貴（紀）

大国主神の名前の多さ

大己貴命と四魂の説

天孫降臨 タケミカヅチの神名の違い

海幸・山幸

神武天皇と国風諡号・漢風諡号

●『日本書紀』の「天地開闢」からという場面を勝負ごとと併せて説き起こしたものが残っているものとしては？

(例) 相撲の「方屋開口」…勝ち負けを陰陽にわけて考える

天地開けて始めより、陰陽を分かり、清き明らかなるもの、陽にして上にあり

これを勝ちと名づく

重く濁れるもの、陰にして下にあり これを負けと名づく
 勝ち負けの道理は、天地自然（あめつちおのずから）の理にしてこれを為すは人なり
 清く潔き（いさぎよき）ところに 清浄の土を盛り
 俵をもって関所となすは、五穀成就の祭事なり
 一つの兆しありて形となり 形なりて前後左右を東西南北 これを方という
 その中にて勝負（かちまけ）を決するの家なれば、今初めて片屋といい名づくるなり

▼『古事記』『日本書紀』について（その成立と特徴・内容）

『古事記』『日本書紀』とは？ 日本を代表する歴史書であり神話を記述した書⇒「記紀」
 古代日本の歴史を知る上では必須の書 …どちらも元々は、天武天皇の命により編纂が開始
 6世紀中頃⇒『帝紀』『旧辞』が成立（欽明天皇の時代）

★『古事記』『日本書紀』の成立事情

7世紀後半…天皇を中心とした古代国家が確立、永続した国家の基盤を作るためにもきちんとした国の歴史を示した書が必要（外国に対する面も含めて）
 天武天皇…奈良時代、古代国家の成立を成し遂げた天皇

●日本書紀…日本の正史 その後も編纂…あわせて六国史と称される（901年以降は編纂がない）

- ①『日本書紀』②『続日本紀』③『日本後紀』④『続日本後紀』
- ⑤『日本文徳天皇実録』⑥『日本三代実録』

中国…24史（『史記』、『漢書』、『三国志』、『宋書』など）

韓国（朝鮮）の正史…高麗の時代に『三国史記』（1145年）『高麗史』『朝鮮王朝実録』が編纂

『日本書紀』の編纂は国家的大事業。その撰上後は国家最要の書とされ、国政の基礎、根本を示す書でもあり、裁判の典拠ともされた。

『日本書紀』は平安初期には、帝王学の第一の書とされ、各天皇の御代ごとに文章博士によって講義がなされ、その講義内容は『日本紀私記』に知られている。

『日本書紀』を講読する場合の参考書の一つとして『古事記』がみられてきた（とくに中世以降）。

近世の垂加神道でも…『日本書紀』を尊重し、併せて『中臣祓』を尊重。

本居宣長が国学の興隆とともに注釈書たる『古事記伝』を三十年余の歳月をかけて記し、『古事記』を尊重するようになったことで『古事記』に日の目があたるようになった。

表3 神名の表記について

記紀での違いの例	天照大御神(『古事記』)	伊耶那岐命(『古事記』)
	天照大神(『日本書紀』)	伊弉諾尊(『日本書紀』)
	建速須佐之男命(『古事記』)	伊耶那美命(『古事記』)
	素戔鳴尊(『日本書紀』)	伊弉冉尊(『日本書紀』)
表記の類例	(例) 天照坐皇大御神	(例) 大国主神
	アマテラスオオカミの場合) 天照大神	オオクニヌシの場合) 大国主命
	天照皇大神	大穴牟遲神
	天照大日(雨ヘンに口三つに女)神	葦原色許男神
	天照大日(雨ヘンに口三つに女)尊	八千矛神
	天照大日(雨ヘンに口三つに女)命	大物主大神
	天照(雨ヘンに口三つに女)女貴	宇都志国玉神
	天照御魂神	大己貴神
天照日女命	大己貴命	

(表1) 『古事記』と『日本書紀』の違い		
	『古事記』	『日本書紀』
完成年	712年(来年で成立1300年)	720年(『古事記』より8年遅い)
巻数	全3巻	全30巻+系図1巻(系図は現存せず)
収録期間	天地初発～推古天皇(第33代)	天地開闢～持統天皇(第41代)
発起者	天武天皇(第40代)	天武天皇(元正天皇の御代に完成)
編纂者	稗田阿礼、太安万侶。 『帝紀』、『旧辞』を誦習していた稗田阿礼がその内容を語り、太安万侶がその内容を筆記する形で編纂。元明天皇の命で作業が再開され、元明天皇へ献上される	命を受けた川島皇子・忍壁皇子ら6人の皇族、中臣連大嶋ら6人の官人によって編纂が始まり、そののちに舎人親王、藤原不比等らが受け継ぎ完成させた
表記	日本語の文脈を活かした漢文体(漢字の訓読みと音読みを交えた日本語)	漢文体(当時の国際語であった漢文)
文体	紀伝体	編年体
目的	国内向け、神代より続く皇室の歴史書	国外に向けて、神代を含め、皇室を戴く日本の成り立ちと歴史を紹介
構成	神代が3分の1を占め、成立時代に近い天皇については系譜を示すのみ	神代は15分の1と、全体の構成の中では記述は少なく、時代が近くなるほど、詳しく記述されている
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ●オオクニヌシ(大国主大神)を中心とする出雲神話が3分の1を占め、古事記全体の中で、重要な位置を占めている。 ●氏族の系譜にも触れている点 	<ul style="list-style-type: none"> ●「一書に曰く」として正史以外に異説を多数記載。内容は似通うものの、様々な異説が掲げられており、記述としては、一面的でないことが特徴。 ●古事記に比べ出雲神話に関する記述が少ない ●中国思想の影響 ●遣唐使によって海外に運ばれたとも

(表2) 古事記と日本書紀に登場する主な神様の表記の違いについて		
『古事記』	読み	『日本書紀』
伊耶那岐	イザナギ	伊弉諾
迦具土	カグツチ	軻偶突智
須佐之男	スサノオ	素盞鳴
建御雷	タケミカズチ	武甕槌
天之宇受売	アメノウズメ	天鈿女
神倭伊波礼毘古	カンヤマトイハレビコ (神武天皇のこと)	神日本磐余彦
日本語本来の音を漢字で表現している	特徴	名前の持つ意味を漢字で表現